



平成 27 年 11 月



なぜ協働によるまちづくりが必要なの？

全国的な背景

地域の連帯感・意識が希薄になってきている

少子高齢化、人口減少、混住化が進んできている

住民ニーズが多様化してきている

国・地方ともに厳しい財政状況となっている

核家族化、生活圏が拡大して人と人のつながりが希薄になってきかねえ...

みんなの価値観やライフスタイルが多様化してきたね！

小城市では...

(市民アンケート結果や協働によるまちづくり検討委員会での意見から)

地域イベントへの参加者が少ない。活動に住民の理解が得られない。

市民協働意識を高める必要がある

人口減少・高齢化により行政区単位での活動が縮小している。

行政区の単位を超えた地域での活動が必要となってきた

各種団体の活動内容がわからない。団体間での連携が難しい。

地縁団体と志縁団体の連携を強化する必要がある

* 地縁団体とは 自治会・婦人会・老人クラブ・消防団・PTA 等

* 志縁団体とは ボランティア団体・市民活動団体・まちづくり団体・NPO法人 等

役員のなり手がいない。運営を手伝う人がいない。

担い手・人材を育成する必要がある

これからのまちづくりは...

- ・行政主導
- ・市民参加

市役所



- ・市民主体
- ・市民と行政の協働

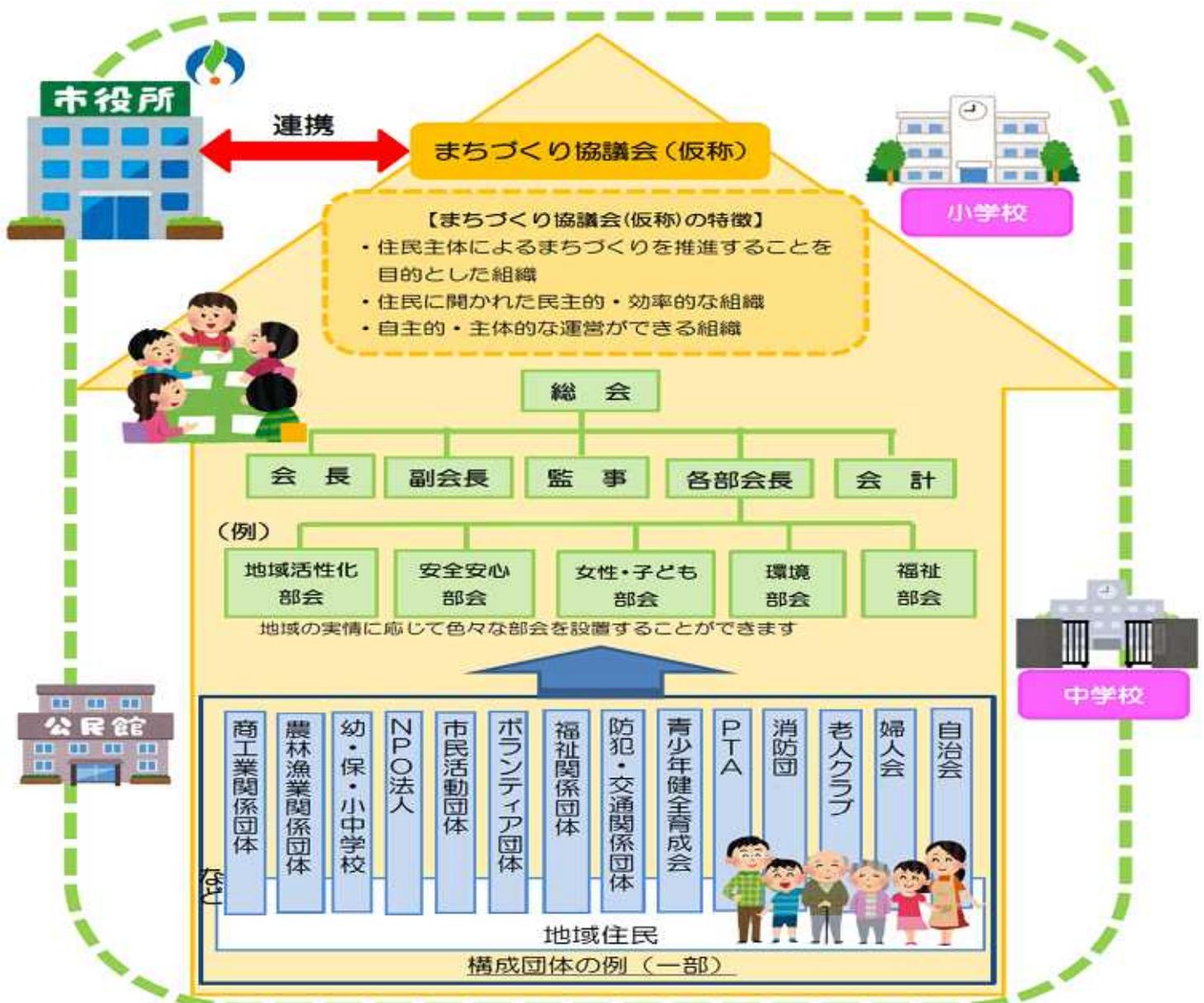


目指す将来像

行政区（自治会）の範囲を超える一定の地域を基本として、自治会、消防団、PTA、老人クラブ等各種団体に構成する「まちづくり協議会(仮称)」で、地域課題を解決していくとともに地域の魅力を活用し、地域活性化に向けた取組みを行い「住民主体のまちづくり」を目指します。

まちづくり協議会(仮称)は、概ね小学校区単位を想定し、地域によってはそれ以外の地域を単位とします。
各種団体が個別に活動するだけでなく、地域全体で情報を共有し、地域のことを話し合い、地域で必要な取組みを協力して実施していきます。

まちづくり協議会(仮称)のイメージ 【概ね小学校区の区域】



どのように進めていくのか

協働によるまちづくりの進め方の例を示しています。地域の実情や課題によって進め方は違ってきます。実際に取り組んでいく時は、地域の特色に応じて進めて行きましょう！

協働によるまちづくりの実践例

勉強会の実施

協働によるまちづくりに関する勉強会を行います。
(メンバーは、行政区の区長(自治会長)、各種団体の長などを想定していますが、女性やNPOなど多様な関係者が加わることも必要です。)

設立準備会(仮称)の立ち上げ

協働によるまちづくりに向けた取組みを行う決定をします。

まちづくりワークショップの開催

地域の魅力や課題などの洗い出しをします。
『地域の目標』を検討します。
目標実現に向けた『活動内容』を検討します。

設立準備会(仮称)会議

まちづくりワークショップの開催

設立準備会(仮称)会議

(状況に応じて複数回開催)

(状況に応じて複数回開催)

【準備会、ワークショップで話し合った内容は、地域の皆さんに随時お知らせします】

まちづくり計画(仮称)の策定

準備会やワークショップで話し合った内容を、まちづくり計画・プラン(仮称)としてまとめます。
まちづくり計画・プラン(仮称)を実現していくために必要な体制を検討します。

まちづくり協議会(仮称)の設立

組織・規約等を決定します。

住民主体のまちづくり

まちづくり計画・プラン(仮称)にそって「住民主体のまちづくり」を進めていきます。

ワークショップとは...

さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見をまとめ上げていく場です。(対話型)



支援

経費支援
アドバイザー派遣
など

小城市協働によるまちづくり検討委員会

(事務局 小城市 総務部 企画政策課 市民協働推進係)



〒845-8511 佐賀県小城市三日月町長神田 2312 番地 2

TEL 0952-37-6115 FAX 0952-37-6163 E-mail kikaku@city.ogi.lg.jp